

特定農業団体「肥田町農業生産組合」だより

生産組合の現状と課題

肥田町は、水稻中心の農業を各個人農家で営んでおりましたが、集落の水田のすべてが未整備田であり、一戸当たりの平均耕作面積は5反前後でした。農家の殆どが兼業農家で、給料やボーナスを貯えてトラクターやコンバインなどの高価な農業機械を購入しての経営で収支を見ると赤字がほとんどであったと思います。

こうした中、昭和30年代に整備された牛ヶ瀬井堰のポンプ場が故障が多くなり、更新の時期を迎え新たな設備投資が必要になりましたが、ポンプの更新にかかる費用と圃場整備をして新たな圃場を構築する事業と補助率の関係で費用が変わらないということになり、町民の皆さんのご理解とご協力により経営体育成基盤整備事業を実施することになりました。

今まで、自分は大丈夫と思っていた、不慮の事故や病気で働けなくなったり、必然的に耕作放棄地が増加していくと集落に活気がなくなるとともに、隣接農家に多大の迷惑をかけます。また、個人経営では農業機械への過剰投資による生産コストの増大も懸念されていました。

こうしたことから、単に圃場整備するだけでなく、先祖からの大事な農地・地域の財産を守るには共同の力が不可欠であり、肥田の将来のあるべき姿に、どうすれば美田を守れて、農業が維持・発展出来るかを徹底的に話し合い、「地域の和・継続性・収益性」を基本理念に、「肥田の農地は肥田で守る」をスローガンにして肥田町農業生産組合を平成17年3月に設立し、一集落一農場方式で54戸の農家が参画して水稻を中心とした営農を始めました。

滋賀県を含め日本の年齢別農業就労人口の構成比は急激な高齢化が進み、これまで農業生産を支えてこられた世代の引退が現実となる中、担い手の育成・確保が待ったなしの状況に進む時期に肥田町は、美田が荒廃し、ふるさと



が無残な姿になりかねないことを懸念して圃場整備に着手し、若いオペレーターを確保して次の世代に美田を引き継ぐシステムが生産組合の設立により確立できました。

生産組合は、一定のまとまりのある集团的土地利用だけにとどまらず、水稻の品種ごとの集団化に取り組むことにより品質の向上や作業の効率化を図り、より強固な経営を目指していく必要があります。

近年の農業経営環境の変化が大きい中、現状維持にとどまっていた継続性に不安が残ることから、現状に満足するのではなく、どうすれば生産組合が発展出来るのか、今後、どういう方向を目指すのかを組合員全員が経営者として検討していく必要があります。



hida

広 報

ひだ

町 木



第56号

肥 田 町

まちおこし推進協議会

H22.10.1 発行

平成23年度農林水産予算概算要求の概要

米の販売価格が生産費を恒常的に下回っている中、平成23年度の国の概算要求をみると、麦や大豆等への転換を進め、農業経営の安定と国内生産力の確保を図るとともに、戦略作物の作付け転換を促し、もって食糧自給率向上と農業の多面的機能の維持を目指して、米・麦・大豆等の作物を生産目標に従って、販売目的で生産する農家を対象に、農業者個別所得補償制度の本格実施になります。

補助金の交付単価は、主食米で反当1万5千円、麦の営農継続(面積)払いと日活用の所得補償で5万5千円、大豆の営農継続払い(面積)と2毛作助成

で3万5千円となっており、麦大豆で9万円が交付されます。麦・大豆は、数量払いと面積払いの併用した仕組みになっています。数量払いの全国平均は、麦で4万4千円、大豆で3万9千円となっております。数量払いは、営農継続(面積)払いと比較して高い方が交付される内容になっていることから、全国平均的な収量が確保できたとすると、反当9万円に替えて13万3千円の補助金を受けられることになります。

このことから、暗渠排水が完成する平成23年作からは、今まで以上の品質や収量が確保でき、全国平均レベルの収穫が出来るよう組合員の皆さんのご理解と出役等の協力をお願いします。

より効果的な経営体を目指して

水稻は、収量の確保は一定の成果を見られるようになりましたが、整地作業の均平化や除草効果の向上の課題に取り組むとともに、昨年から実施しました麦と大豆の作付けは、過去実績がない中、昨年は国の支援で多額の補助金を受けることが出来ました。しかし、本年からは収穫量や品質で補助されることになるため、収量の確保と品質の向上に向けた技術の確保が必要であります。経営面積を拡大する力をつけることによって、肥田町内の農地を計画的に利用でき、多くの面で合理化を図り、省力化やコストの削減を目指していく必要があることから、組合員の農地は生産組合で耕作するとともに、今まで加入していなかった方にも今までの積立金等に対する調整金の負担をお願いして参加を呼びかけいたします。

また、水稻の育苗用に導入したパイプハウスは、野菜等の新規作物の導入実験をする目的で国の支援を受け、野菜の苗を植え付け長年畑作業を経験された方々のご指導とご協力により新規作物の導入が出来、経営の多角化や複合化に取り組むことが出来ました。

生産組合を始めて、肥田町には多様な能力を持つ人材があられることが見えて、こうした方々に大いに能力を発揮していただくことが集落営農やこれからの時代に向けた肥田町の地域に適したまちづくりの最大のメリットであると思います。

経営体育成基盤整備事業で圃場整備をしていることから工事完了後5年以内に法人化を図る必要があり、また、平成17年に特定農業団体を設立した時に5年以内に法人化するという条件でトラクター・コンバイン・田植機の県費補助を受け、トラクターや汎用コンバイン・パイプハウス等の国費の補助を受

けています。これらの補助金の総額は、約2千万円になっています。

法人化を図ると次のようなメリットがあると言われていますが、肥田町の現状を分析すると色々な課題が山積していることから、法人化に向けて調査・研究・検討をしていく必要があります。

法人化のメリット

★経営上のメリット

- ①経営管理能力の向上が期待できる。
- ②対外信用力が向上する。
- ③農業従事者の福利厚生が充実する。
- ④経営の後継者の確保や受け入れがしやすくなる。

★制度上のメリット

- ①農業経営基盤準備金により税制上の優遇措置の利用が可能になる。
- ②農地や施設等の権利取得が可能になる。
- ③農業者年金の加算付き年金等を受給するための受け皿になれる。
- ④特定農業団体の面倒な経理事務が不要になる。

圃場整備や農業機械設備等の支援を受けて事業を進めてきた中、行政からは速やかに法人化を求められています。これらのことから、肥田町の皆様のご理解とご協力をいただきながら進めて行きますので、今後ともどうぞよろしくご理解とご協力をお願い致します。

成宮 一郎





小学6年生の夏休みの綴り方特集 (ぼくの夏休み ぼくの家族)



ぼくの夏休み

薩摩 陸

ぼくにとって小学校最後の夏休み、「今年は特に予定がないな」と思っていたけれど、夏休みが始まると、いろんな計画が立ってきました。そして、とても充実した毎日を過ごすことが出来ました。その中でも特に楽しかったことが二つあります。

一つ目はナゴヤドームで阪神対中日の試合を観戦したことです。阪神ファンのぼくは、この日をとても楽しみにしていました。残念ながら試合は負けてしまって悔しかったけれど、また応援に行き阪神の選手といっしょに野球を楽しみたいです。

二つ目は高校野球を観に行ったことです。その日は、朝早く出かけ、第一試合から第四試合まで観ることが出来ました。どの試合も一生懸命にプレーする選手は、とてもカッコよく、観ていてぼくもドキドキすることが何回もありました。その日から時間があればテレビでも高校野球を観て、ぼくもあんなふうになりたいなと思っています。来年はいよいよ中学生、大好きな野球がずっとできるように練習をしていきたいです。

ぼくの家族

筒井 隆稀

ぼくの家族は、五人家族です。お父さん、お母さん、お兄ちゃん、と妹がいます。お父さんは、仕事に毎日頑張っています。お母さんは、仕事も家事も、しっかりとしておいしいご飯を作ってくれます。お兄ちゃんは、部活に行っていて大変だそうです。妹は、ぼくとよくけんかをして、よくお母さんに怒られています。

こんな家族だけど、ぼくにとっては、最高の家族です。

ぼくの夏休み

松村 幸大

子ども会では、地蔵盆が三日にわたって行われました。まずは、お供え、花、ほうがんを皆で集めに回ります。二日目は、毎年恒例の肥田町内ウォークラリー、ビンゴゲーム、肝試しをしました。肝試しでは五、六年生で話し合い、おどかし方や、場所などを班で決めました。自分たちで、おどかすものの用意をしたり、早めに来て準備あれこれして、上手くいかない事もあったけれど、最後となる肝試し楽しかったです。

そして、ぼくは剣道をしています。今年の夏はすごく暑くて、胴着、防具をつけて稽古していると汗がだらだら出て、軽い熱中症に二回ぐらいました。それでも夏休みの稽古も、もう少して終わります。夏休みの最後と、秋に入ったら試合も沢山ありますが、暑い中乗り切れた自信を持って、また選手に選ばれるように頑張りたいです。



7/26 子ども会夏の旅行 大型児童館 ビッグバン（大阪堺市）

ぼくの夏休み

宮川 聖基

今年の夏休みで楽しかったことが三つあります。

一つ目は、子ども会の活動です。特に町旅行が楽しかったです。6年間、いろいろな所に連れて行ってもらい、いい思い出が沢山できました。子ども会のみんなと遊ぶのは今年で最後なので、ちょっと淋しいです。二つ目は地蔵盆です。地蔵盆で肝試しをしました。頑張っておどかしているのに、全然驚いてくれなかったので悔しかったけど、楽しいこともありました。水ばくを投げたり、おどかしたりしていたけど、全部失敗してしまいました。

三つ目は、夏祭りです。夏祭りは、ストラックアウト、輪投げ、スーパーボールすくいなど楽しいゲームもありました。小学校最後の夏休みは、思い出がいっぱい出来ました。

ぼくの夏休み

伊関 伎

ぼくは、夏休みに福岡県に、初めて弟と二人だけで新幹線に乗って親せきの家にとまりに行きました。二人だけで改札口を出たら、「いよいよ九州に行くんやなあ」と少しドキドキしてきました。でも、出発してみると意外に緊張もなくなりました。弟と話をしたり、本を読んだり、お母さんを作ってくれたお弁当を食べたりして、ゆったり、まったり出来ました。

博多駅に着くと、おばあちゃんがホームまで迎えに来てくれていて、ホッとしました。おばあちゃんの家からは、歩いて海まで行くことが出来ます。初めての海はすごくしょっぱかったです。他にはバッティングセンターに連れて行ってもらったり、夏祭りもやっていたので楽しかったです。帰りは、お父さん、お母さんが京都駅のホームで待っていてくれました。顔を見たらなぜか「ニヤッ」としてしまいました。

ぼくの夏休み

藤野 尋也

ぼくの夏休みは、野球で始まり、野球で終わりました。野球と言っても甲子園の応援ではなく、各小学校から選ばれた人たちで新しいチームを作り、練習や試合を経験出来ました。最初ははずかしくて、みんなとしゃべれなかったけど、練習、試合をやっていくうちに、野球を通して声をかけられ、会話ができるようになりました。今では20人みんなが友達です。

今年は物凄く暑い夏でしたが、ぼくにとっては、いい夏休みでした。このメンバーで8月22日に彦根南選抜チームとして参加した「高松親善少年野球交歓大会」は、残念な結果でしたが、いろんな事を学びました。指導して下さった監督さん、コーチさん有難うございました。



8月14日

音場小路

肥田町夏まつりに初出演…大盛況



音場小路(音場コミチ)のユニット
ボーカルは畠中未佳さん、ピアノ担当
は成宮恵美さん(肥田町在住)。